

会

報

社団法人 日本病理学会  
 〒 113-0033  
 東京都文京区本郷 2-40-9  
 ニュー赤門ビル 4F  
 TEL: 03-5684-6886  
 FAX: 03-5684-6936  
 E-mail jsp-admin@umin.ac.jp  
 http://jsp.umin.ac.jp/

社団法人日本病理学会

第 238 号

平成 19 年 (2007 年) 11 月刊

### 1. 平成 19 年度学術奨励賞受賞候補者の推薦について

社団法人日本病理学会学術委員会は、平成 19 年度学術奨励賞受賞候補者の推薦を以下のとおり募集いたします。

平成 19 年 11 月  
 社団法人 日本病理学会  
 理事長 長 村 義 之  
 学術委員長 岡 田 保 典

学術奨励賞は、病理学の基礎的研究あるいは診断業務の中で特に優れた学術的貢献を行った本学会若手会員に対して与えられる賞です。

受賞対象者は、その年度末 (3 月 31 日) 段階で 3 年以上の会員歴を持つ 40 歳以下の会員としています。

学術評議員各位には、下記の要領で候補者の推薦をお願いいたします。

#### 推 薦 要 領

1. 本年度は、数名への授与を予定しています。
2. 募集締切り期日は、平成 20 年 1 月 31 日 (当日消印有効) とします。
3. 候補者の推薦にあたっては、日本病理学会ホームページよりダウンロードした所定の書式をご利用の

上、書留郵便にて日本病理学会事務局までご送付ください。ダウンロードできない場合には本学会事務局までご請求ください。

4. 学術奨励賞受賞者には、賞状と記念品が贈呈されません。
5. 賞の授与は、次年度の総会において理事長が行います。

なお、本件について、ご質問などがありましたら、本学会事務局までお問い合わせください。

### 2. 平成 20/21 年度役員 (理事・監事) の選出について (お知らせ)

平成 19 年 11 月 5 日  
 社団法人日本病理学会  
 選挙管理委員長 森 茂 郎

社団法人日本病理学会選挙管理委員会は、平成 20/21 年度役員 (理事・監事) 選出のため、役員立候補の公募・選挙を実施し、所定の役員を選出決定 (記の 1) しましたので報告いたします。なお、このたびの役員・理事長選挙は、下記の日程で行われました。

○第 1 回委員会 (6 月 6 日): 役員選挙の公示文書および選挙の概要の確認。

### 新学術評議員の推薦について

本学会学術評議員として適当と思われる会員 (資格条件は、申請時点において病理研究歴満 7 年以上、会員歴 5 年以上) があれば、その候補者名に所属機関、職名、略歴並びに業績目録をそえ、推薦状に学術評議員 2 名以上連署のうえ、平成 20 年 1 月 31 日までに学会事務局あて書留にてお送り下さい。

各位からご推薦のありました候補者につきましては、理事会において上記の条件を書類審査し、その結果により、春期総会時に開催されます学会総会にて承認を受けることとなります。

社団法人日本病理学会事務局

6月20日付けにて、役員候補者の公募を通知。

○第2回委員会(8月1日):役員立候補者の確認。8月20日付けにて、立候補者が定員を超えた選出区分において選挙公示。正会員数3,623名(8月20日現在)による投票(9月10日消印有効)。

○第3回委員会(9月14日):役員選挙開票・選出(記の2)。ただし、役員立候補者が定員内の選出区分については、無投票当選者を確認・選出(記の3)。理事長選挙への所信表明の公募(9月28日締切)。理事長選挙の公示文書の確認。10月10日付けにて、理事長選挙の公示。正会員数3,646名(10月10日現在)による投票(10月31日消印有効)。

○第4回委員会(11月5日):理事長選挙開票・選出(記の4)。投票数1,237通、投票率は33.9%。結果は、立候補制ではないため、次点まで掲載。

## 記

### 1. 平成20/21年度役員(理事・監事)選出

理事長	長村	義之
理事	青笹	克之
理事	深山	正久
理事	井内	康輝
理事	覚道	健一
理事	黒田	誠
理事	真鍋	俊明
理事	松原	修
理事	本山	悌一
理事	向井	清
理事	根本	則道
理事	岡田	保典
理事	坂本	穆彦
理事	佐藤	昇志
理事	白石	泰三
理事	居石	克夫
理事	寺田	信行
理事	上田	真喜子
理事	山口	朗
監事	石原	得博
監事	太田	秀一

(氏名は、役名ごとにABC順で記載)

### 2. 役員選挙投票結果

(1) 選出区分1 地方区選出理事(1名)

	順位	氏名	得票数	
1-3 関東	1.	根本 則道	377票	当選

2. 中島 孝 207票 次点

内訳: 会員数1,347名, 投票数(率)590票(43.8%), 有効投票数584票

(2) 選出区分2 全国区選出理事(11名)

	順位	氏名	得票数	
	1.	長村 義之	929票	当選
	2.	真鍋 俊明	768票	当選
	3.	深山 正久	752票	当選
	4.	黒田 誠	635票	当選
	5.	向井 清	601票	当選
	6.	覚道 健一	501票	当選
	7.	坂本 穆彦	499票	当選
	8.	青笹 克之	463票	当選
	9.	岡田 保典	455票	当選
	10.	松原 修	423票	当選
	11.	上田真喜子	415票	当選
	12.	樋野 興夫	314票	次点
	13.	仲野 徹	210票	

内訳: 会員数3,623名, 投票数(率)1,575通(43.5%), 有効投票数1,557通, 総投票数6,973票, 有効投票数6,965票

(3) 選出区分3 口腔病理部会長兼務全国区選出理事(1名)

	順位	氏名	得票数	
	1.	山口 朗	769票	当選
	2.	朔 敬	549票	次点

内訳: 会員数3,623名, 投票数(率)1,366票(37.7%), 有効投票数1,318票

### 3. 無投票当選者

(1) 選出区分1 地方区選出理事(6名)

1-1 北海道	佐藤 昇志	当選
1-2 東北	本山 悌一	当選
1-4 中部	白石 泰三	当選
1-5 近畿	寺田 信行	当選
1-6 中国四国	井内 康輝	当選
1-7 九州沖縄	居石 克夫	当選

(2) 選出区分4 監事(2名)

	石原 得博	当選
	太田 秀一	当選

### 4. 理事長選挙投票結果

	順位	氏名	得票数	
	1.	長村 義之	757票	当選
	2.	深山 正久	76票	次点

内訳: 会員数3,646名, 投票数(率)1,237通(33.9%), 有効投票数1,226票

### 3. 海外派遣事業報告について

国際交流委員会では、会員の海外派遣事業を行っています。このたび、黒田直人学術評議員がチェコ共和国を視察しましたので、その報告を掲載いたします。

#### チェコ共和国・病理視察報告

黒田直人（高知赤十字病院・病理診断科部）

今回、2007年度前期の日本病理学会の海外派遣員に選出していただき、2007年9月25日から29日までの1週間にわたり、チェコに渡航し、ChomutovのBiopsy Cytology LaboratoryとPlzenのCharles University Hospital Plzenの2施設を訪問させていただきました。小生は1人病理医であり、長期間の滞在は困難であるため、1週間と短い滞在でしたが、御蔭様で非常に内容の濃い視察ができました。チェコの病理医は国内では250-300名存在し、人口比率からいくと日本と同じような状況にあり、日本病理学会でも問題となっている病理医の高齢化、という点でもチェコの病事情は類似した点があることがわかりました。チェコの病理医のうち約1/3はprivate laboratoryに勤務しており、病院病理医は大学以外は1病院あたり1-2名です。チェコとスロバキアは1993年に国家が分裂しましたが、あくまで政治的な意味での分裂であり、両国の病理医での交流は依然さかんであり、1-2年に1度はチェコとスロバキアの学会は共同で開催しており、共同の学会誌も存在しています。日本の病理医にはチェコの病事情についてはほとんど知られていないのが現状ではないかと思えます。なぜなら今回、小生を受け入れていただいたProf. Michalの話によれば、世界各国の病理医がCharles University Hospital Plzenに訪問、視察に来るが、日本人が来たのは黒田がはじめてだ、と伺いました。小生も4年前まではチェコの病事情は全く知りませんでした。外科病理に関する様々なすばらしい論文がチェコから多数報告されるのに気づき、何故ヨーロッパの小国からこのようなすばらしい仕事がたくさん出てくるのだろう、と疑問に思ったのがこの国に興味を抱くようになったきっかけです。それ以来、小生は4年前から今回の受け入れ先であるDr. HesとProf. Michalと知り合いになり、昨年にも泌尿生殖器病理セミナーでPlzenを訪問する機会を得ましたが、彼らの施設を見学するのは今回が初めてであり、幸いにも日本病理学会よりチェコに派遣していただく機会を得、上記の2施設の見学と地域病理医とのカンファレンスにも参加し、さらに受け入れ先のProf. Michalの御好意により国際交流講演をさせていただく機会を得ましたので、これらをここに報告いたします。

#### 1) Biopsy Cytology Laboratory in Chomutov

Chomutovは北ボヘミア地方に存在し、Plzenからは車で約2時間の距離にあります。ヒトラーの統治下時代にはドイツの支配下に置かれていた地方で、チェコの中では最も貧困層が生活している地域であり、小さな町の集落を出ると田園風景が延々と広がる自然の豊かな地域でもあります。Chomutovの市内には4つの病院が存在しており、4つの病院を合わせると約1,000床です。今回訪問したlaboratoryは、日本でいう、いわゆる小さな検査センターといえます。2年前より、当laboratoryをスタートさせ、Dr. Sulcが内部を案内してくれました。3階建ての建築物にそれぞれの階に4つの部屋が存在し、標本やブロックなどを収納する倉庫、薬品類を収納する倉庫、マクロの切り出しを行う部屋、免疫染色を行う部屋、細胞診断を行う部屋、病理医が診断を行う部屋、事務処理を行う部屋、ダイニングルーム、接客室などに部屋が割かれていました。標本、ブロックなどの法で定められた保存期間は10年と伺いました。生検標本数は年間約18,000件で、日本と同じように消化管の材料が多く、手術標本は約3,000件です。細胞診標本は婦人科標本が約20,000件、婦人科以外は約1,500件であり、婦人科症例が圧倒的に多いといえます。病理医数は4名、検査技師は12名（うち検査検査士は3名）です。Dr. Sulcの話によれば、検体数からいくと、病理医があと1名ほしいが、地理的にもかなり田舎だしなかなか来てくれる人がいないと、嘆かれていました。4名のうち1名は若い病理医で、彼は大学で1年間勉強したあと、Chomutov近くの出身なので来てくれた、と伺いました。また、若い病理医は市内に存在する年間250件の剖検を施行している病院に手伝いに行っていると伺いました。病理医に関してはチェコにおいても高齢化が進んでおり、若い病理医の確保が難しく、日本と同じようなところで苦勞されていることを実感し、日本で地方に住んでいる小生としては共感を覚えました。病理診断を下すうえで依頼臨床医とのコンタクトが必要な場合には皆メールアドレスを知っているので、遠慮なくメールで連絡し合っているとのことでした。また、診断困難症例に関してはPlzenの先生方（Dr. Hes, Dr. Skalova, Dr. Michal）と綿密に連絡を取り合っており、丁寧に教えてくれるので、何ら不自由はしていない、とのお話で、チェコ内の病理医間のコミュニケーションが良好な様子が知ることができました。Dr. Sulcは病理医として活躍されているばかりでなく、音楽家としても活躍されており、Dr. Sulcの所属する合唱団のCDを1枚幸運にも御土産としてプレゼントとしていただきました。

#### 2) Charles University Hospital Plzen

Plzenは西ボヘミア地方に存在し、Charles Universityは中央ヨーロッパでも最初に立てられた由緒ある大学で

す。中でも Plzen の大学病院は世界有名病院の一つとして知られている、いわゆる名門大学病院です。ベッド数は 1,838 数で、生検・手術材料は大学、private laboratory を合わせると、年間約 75,000 件で、うち 1/3 が手術材料です。剖検数は年間約 1,200 件までで、日本や米国と比べものにならない規模といえます。基本的に中欧・北欧では剖検が擁護されている国が多いですが、米国名門のマサチューセッツ総合病院と比較しても約 3 倍の数を誇っており、医療の質の高さをうかがわせます。剖検台も数の多さを反映し、大学内には 6 台の剖検台があります。病理医は大学が 13 名、molecular biologist が 4 名(医師免許はない)、private laboratory が 8 名です。検査技師は大学が 25 名、private laboratory が 15 名です。

受け入れている留学生はヨーロッパ(特に中央、東)が多く、特に若い病理医には開放的であり、スロバキア、ベラルーシ、ロシア、クロアチア、中国などから受け入れているとのことでした。日本からの留学生はまだいないとのことでしたが、Prof. Michal の話によれば、日本からの留学生も受け入れは歓迎する、とのお話でした。国際共同研究もさかんであり、メキシコ、アメリカ、ブラジル、クロアチア、スロバキア、ロシア、中国、日本など多数の国との共同研究が行われています。共同研究においては他国の大きな施設と症例を(個人情報はもちろん守られた状態で)登録し合っており、必要は症例がお互いに共有し合っているということでした。

臨床医とのカンファレンスは脳外科と月 1 回定期的に開催しており、他科とも個々の症例に関して綿密に連絡を取り合っています。Charles University は腎移植の成績は世界でもトップレベルを誇っており、腎生検に関しては HE 染色と特殊染色、蛍光抗体法、電子顕微鏡所見など 3 回にわたり臨床医と綿密で活発な議論が行われると伺いました。そのため、腎生検の検体数の多さを反映してか、迅速標本用のクリオスタットと腎生検用のクリオスタットが別々になっているのは印象的でした。

大学にくるコンサルテーションは世界各国からきており、その数は年間約 7,000 件を超えます。1 人あたりに換算しても年間 300 件以上のコンサルテーションを受け付けていることになり、個々人のレベルの高さが伺えます。米国や西欧などはコンサルテーションに関して料金を取っている病院も多く見受けられますが、Plzen ではコンサルテーションに要する料金はいっさい取っておらず(どんなに molecular study を要した場合においても)、かなり良心的なコンサルテーション・システムといえます。しかし、代表的な組織像を示すブロックを最低 1 個送ってもらう、ということが基本姿勢となっているようです。これは molecular study を施行するのにも、患者さんからの書面での承諾のような日本ほど厳しい制約がヨーロッパでは少ないた

めかもしれません。Plzen の大学には軟部、皮膚、頭頸部など WHO 分類のメンバーを揃えているという点でも強力な布陣ですが、専門の違う領域の病理医間でもお互いによくコミュニケーションが取れている印象を持ちました。それゆえに研究領域や病理診断においてもお互いが高いレベルのものを共有できるのだと感じました。

### 3) 地域病理医とのカンファレンス・国際交流講演

Prof. Michal をはじめ大学の先生方はチェコ内の近隣の病理医からコンサルテーションを受けた症例、自験例やコンサルテーション症例で、興味深い症例、教育症例などを地域病理医のためにスライドセミナーを定期的に施行しているようで、今回このセミナーに参加させていただきました。カンファレンスは 22 名が同時に観察することが可能なディスカッション顕微鏡を交えて行われていました。チェコ語で行われているため、ほとんど言葉はわかりませんでした。Prof. Michal が間に英語で小生にも簡単に解説していただき、医学用語は英語を類似しているため標本をみながら楽しく参加できました。随所で皆にディスカッションさせたり、所見をお互いに確認させあたりと、皆が楽しく標本をみている印象を持ちました。Prof. Michal は 7 月末にはオーストラリア、9 月半ばにはイスタンブールと世界各国へ講演に引っ張りだことなっていますが、卓越した教育能力から、その理由がよくわかりました。症例が 25 例ほど提示されましたが、小生が解説なく理解したのは 3 例程度で、チェコの医療のレベルの高さを改めて感じました。標本はほとんどが HE 標本のみで行われ、HE 標本でどれだけ深く読んでいくか、子宮頸部や内膜の病変など細かい metaplasia の所見も見逃すことなく、粒さに観察していく姿勢は外科病理医のまさに原点のように思いました。Prof. Michal は軟部腫瘍、腎腫瘍の領域でいくつかの新疾患概念をこれまで世に送り出していますが、このような基本に忠実な姿勢が大きな仕事を生み出していくのか、と改めて感嘆させられました。また、カンファレンスの最中にも標本の文字が読めなくなるくらい暗くなるまで灯されなかった点は地球環境にも配慮の深いヨーロッパの病理医らしさが伺われ、日本人も見習う点が多いと感じました。このセミナーの前に Dr. Hes と Prof. Michal の御好意で、“Rare kidney tumor, morphology and differential diagnosis” と題してチェコの病理医の先生方に小生の拙い講演をさせていただきました。内容は Plzen の先生方との共同研究で行われたものが主体でしたが、実践に則した形で行い、日本や高知県の慣習や文化についても話をさせていただき、講演後には聴衆の 1 人であるスロバキア出身の若い病理医である Dr. Ondic から日本文化のすばらしさを賞賛していただき、楽しい時間を過ごせました。

最後になりますが、小生の今回のチェコの訪問に際し、お

世話になりました日本病理学会理事長の長村義之先生，国際交流委員長である笹野公伸先生および国際交流委員会の先生方，小生の留守中にお世話および御迷惑をおかけしました諸先生方，当院の検査技師の皆様方に厚く御礼を申し上げます。また，小生の訪問の翌日から AFIP の会議のためにワシントン D.C. へ旅立たれるなど，御多忙のところ小生を快く受け入れてくださいました Prof. Michal をはじめ，お世話になりましたチェコの皆様方に心より御礼申し上げます。日本からの留学生は未だないようですが，チェコの医療・病理（特に外科病理）のレベルは非常に高く，日本からも留学する価値のある国であることを最後に申し添

えます。

#### 4. 疫学研究に関する倫理指針の改正等について

標記のことにつき，文部科学省より事務連絡がありましたのでお知らせいたします。下記ホームページに全文が公表されておりますので，ご参照ください。

[http://www.lifescience.mext.go.jp/files/pdf/37\\_141.pdf](http://www.lifescience.mext.go.jp/files/pdf/37_141.pdf)

#### 5. 会員の訃報

湯田文朗学術評議員（平成 19 年 9 月 2 日ご逝去）

#### 会費口座自動振替についてのお知らせ

事務局では平成 20 年度会費口座自動振替の準備をいたします。新規お申し込み，または口座変更，ご退会，院生・初期研修医会費適用希望（平成 19 年度適用者も含む），その他のことがございましたら 12 月 28 日までに事務局宛お知らせください。すでにお届けを頂いている場合の再連絡の必要はありません。

また，終身会費のお納めにつきましては，該当される先生には事務局よりご連絡を差し上げます。

社団法人 日本病理学会事務局 〒113-0033 東京都文京区本郷 2-40-9 ニュー赤門ビル 4F  
TEL: 03-5684-6886 FAX: 03-5684-6936  
E-mail: jsp-admin@umin.ac.jp

## 会 員 各 位

平成 19 年 11 月  
理 事 長 長 村 義 之  
学術委員長 岡 田 保 典

### 第 54 回（平成 20 年度）日本病理学会秋期特別総会 学術研究賞演説（A 演説）、B 演説について（公募のお知らせ）

平成 20 年秋開催予定の第 54 回日本病理学会秋期特別総会における学術研究賞演説（A 演説）と B 演説の募集をしております。

これら演説の応募内容は、以下の要件を満たすことといたします。

- (1) 優れており、かつ蓄積された研究であること。
- (2) 原則として日本国内で行われた研究であること。
- (3) 内容に関する責任の明確な研究者による発表で、内容は共同研究によるものであっても発表者自身はそれを代表するものであること、従って単独名が望ましい。

#### B 演説

- (1) 症例報告または症例の蓄積による解析。

学術研究賞演説（A 演説）、B 演説担当者として講演することを希望する会員は、下記の要領でご応募ください。

## 記

#### 学術研究賞演説（A 演説）

- (1) 応募資格：日本病理学会員でありかつ学術評議員による推薦を受けた者。ただし、応募者自身が学術評議員である場合、自薦で可とする。
- (2) 提出書類：
  - ・日本病理学会ホームページよりダウンロードした所定の書式に、応募者名、演題名、選考用抄録（800 字以内）などを記載し、推薦学術評議員の自署・捺印を受けてください。ダウンロードできない場合は、日本病理学会事務局までご請求ください。
  - ・講演内容に直接関係のある自著論文 20 編以内の一覧。
  - ・代表的な自著論文 5 編以内の別刷各 3 部（コピー可）。
- (3) 提出先：〒 113-0033 東京都文京区本郷 2-40-9 ニュー赤門ビル 4F  
社団法人日本病理学会事務局  
「学術研究賞演説（A 演説）応募抄録」と表記し、書留郵便により郵送してください。
- (4) 募集締切：平成 20 年 1 月 31 日（当日消印可）

## B 演説

- (1) 応募資格：学術研究賞演説（A 演説）に同じ。
- (2) 提出書類：
  - ・日本病理学会ホームページよりダウンロードした所定の書式に、応募者名、演題名、選考用抄録（800 字以内）などを記載し、推薦学術評議員の自署・捺印を受けてください。ダウンロードできない場合は、日本病理学会事務局までご請求ください。
- (3) 提出先：学術研究賞演説（A 演説）に同じ。「B 演説応募抄録」と表記し、書留郵便により郵送してください。
- (4) 募集締切：学術研究賞演説（A 演説）に同じ。

以上

第 54 回日本病理学会秋期特別総会における学術研究賞演説(A 演説), B 演説担当者は、平成 20 年 2 月の学術委員会において厳正・公明に選考し、同日の理事会での審議によって決定いたします。

本件についてご質問がありましたら、日本病理学会事務局または学術委員長までお問い合わせください。

社団法人日本病理学会事務局：TEL 03-5684-6886 FAX 03-5684-6936  
学術委員長（岡田保典）：TEL 03-5363-3763 FAX 03-3353-3290

## 2008年 細胞診講習会のお知らせ

2008年の細胞診講習会（社団法人病理学会、担当：病理専門医制度運営委員会）のお知らせをいたします。病理専門医受験資格の要件のひとつとして細胞診に関する講習会を受講していることがあげられております。2008年以降受験予定の方で、未だ細胞診講習会を受講されていない方は、この講習会を受講して下さい（支部主催の講習会は、受験資格に認められておりません）。受講希望者は、下記申込み用紙にて学会事務局宛お申し込み下さい。なお、定員は原則として70名ですが、70名を越える場合は下記6に示す基準に従って選定させていただきます。なお、2008年の病理学会主催の細胞診講習会は今回1回のみです。加えて、従来と開催時期が異なっておりますので、ご注意ください。

1. 日 時：2008年3月22日（土） 9:00～18:30（第1日：受付，講義，検鏡）  
2008年3月23日（日） 8:45～15:10（第2日：講義，検鏡）
2. 講 師：根本 則道（日本大学医学部病理学教室）  
廣瀬 隆則（埼玉医科大学病理学教室）  
清水 道生（埼玉医科大学国際医療センター病理診断科）  
安田 成実（埼玉医科大学国際医療センター病理診断科）  
村田 晋一（埼玉医科大学国際医療センター病理診断科）  
清水 禎彦（埼玉医科大学国際医療センター病理診断科）  
伴 慎一（埼玉医科大学国際医療センター病理診断科）  
桜井 孝規（埼玉医科大学国際医療センター病理診断科）
3. 会 場：日本大学医学部第2臨床講堂 板橋区大谷口上町30-1  
世話人【日本大学医学部病理学教室・根本 則道】
4. 受講料：33,000円（ハンドアウト・CD-ROM・昼食代込み）  
採用通知とともに振替用紙をお送りします。
5. 申込締切：2008年2月2日（土）
6. 受講者の選定基準：1. 2008年病理専門医試験を受験する方  
2. 2009年以降に病理専門医試験を受験する方  
\*1,2を優先としますが、それ以外の方の受講も配慮します。
7. 申し込み、問い合わせ先：社団法人日本病理学会事務局  
〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-9 ニュー赤門ビル4F  
TEL：03-5684-6886 FAX：03-5684-6936

..... き り と り 線 .....

日本病理学会病理専門医制度運営委員会

### 2008年 細胞診講習会 申し込み用紙

氏 名： \_\_\_\_\_ 会員番号： \_\_\_\_\_  
生年月日： \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日 病理専門医番号： \_\_\_\_\_ 細胞診歴 \_\_\_\_\_  
2008年の日本病理学会病理専門医試験： 受験する 受験しない 未定 } 有（ 年）  
2009年以降の日本病理学会病理専門医試験： 受験する 受験しない 未定 } 無  
所属機関： \_\_\_\_\_  
同 住 所： \_\_\_\_\_  
同電話番号： \_\_\_\_\_ FAX番号： \_\_\_\_\_ E-mail： \_\_\_\_\_